

「団結」：ジョー・バイデンがトランプ弾劾裁判を支持 民主党は、バイデンのトランプ大統領弾劾のために、「アメリカの団結」約束 を放棄

Jay Greenberg @NeonNettle

January 26, 2021



ジョー・バイデンは今、トランプ大統領の弾劾を支持している

民主党のジョー・バイデンは、今度は、アメリカに「団結」をもたらす約束を捨て去り、上院は、ドナルド・トランプ大統領の弾劾裁判をぜひ行うべきだと宣言した。

月曜日夜、CNN に対し、バイデンは、トランプを弾劾するための裁判が「行われるべきである」と主張した。

バイデンは、それより前、「国家が癒えることができるように、アメリカ人を団結させる」ことを望んでいると主張し、裁判については曖昧な態度を取っていた。

彼はそれには反対であることをほのめかし、議会在決定してほしいと言っていた。

しかし、バイデンは今、アメリカの歴史で最も人気のある大統領を、確実に弾劾するために、このスタンスを放棄したように思われる。

下院の弾劾責任者たちは、月曜日に上院に対し、弾劾条項を手渡した。

<https://www.congress.gov/bill/117th-congress/house-resolution/24/text>



民主党は、月曜日、上院に対し、彼らの弾劾条項を手渡した

この条項が手渡される時、バイデンは、裁判を支持する意向を表明したと、ブライトバートは言った。

月曜日、バイデンは、職に就いて以来最も長いコメントを、トランプ大統領の弾劾裁判について述べ、CNN に対し、「こういうことが起こらねばならないと思う」と語った。

政治情勢：「ジョー・バイデン・ツイッター追随者の半数は、創作されたフェイクであることが、1月の分析で判明」

<https://neonnettle.com/news/14002-half-of-joe-biden-s-twitter-followers-are-fake-created-in-jan-analysis-shows>

バイデンはこのコメントを、ウェスト・ウィングのホールで、CNN との 1 対 1 の短いインタビューで行った。

彼は、自分の立法者たちと、内閣指名者たちに対して、弾劾は大きな効果を持つであろうと語ったが、「それがもし起こらなければ、より悪い結果になるだろう」と認めた。

バイデンは CNN に対し、もしトランプが、6 か月だけ任期を残していれば、結果は変わってきただろうが、17 人の共和党上院議員が、トランプに有罪の投票をするとは思えない、と言った。

5 日前、バイデンは、「団結」unity をテーマとする彼の就任演説に、この言葉を 8 回も使いながら行った。 [Inaugural Address](#)

しかし、上院がトランプを有罪にすることはあり得ないことを知りながら、そしてコロナウィルス救援の緊急性にもかかわらず、この 46 代大統領は、すでに在職していない 45 代大統領に寛大であるどころか、彼を処罰することを熱心に奨励している。



Joe Biden は、彼の就任演説を通じて、unity（団結）を約束し続けた

多くの共和党上院議員たちは、上院には、前の大統領を審問する法律がないと、公然と論じている：——

「私はこの〈弾劾〉裁判と称する、反憲法のマヤカシに反対する。そして、上院が、一人の私的市民を裁判にかけることができるものかどうか、賭けてもよい。」

——ランド・ポール上院議員

特別報告について、@SenTomCotton は、上院による私的市民の弾劾裁判は、憲法の権威を超えるものだと言っている。

バイデンは彼の就任演説の中で言った——「魂を蘇らせ、アメリカの未来を確保するためには言葉以上のものが要求される。それは民主主義の中で、最も掴みにくいものを要求する：すなわち**団結、団結**だ。」

上院は、今、時間とあらゆる知力や財力を、裁判のために使い、コロナウィルス軽減のための労力の邪魔をするであろう。

関連記事：「バイデンに投票した人々が、ツイッターに、大量の深い後悔の意見を述べている」<https://neonnettle.com/news/13983-biden-voters-flood-twitter-to-express-deep-regret>

[Gretchain 訳注]

すでに公職を退いたトランプ大統領を、弾劾裁判にかけることができるのか？ 圧倒的に敗北していたバイデンを、圧倒的に勝利させることができるのであれば、それも可能であろう。しかし、その目的は何か？ それはトランプが、政治の世界に二度と現れないように抹殺するためであろう。なぜ、それほど恐ろしいのであろうか？ これは何年も前からこのブログで論じてきたことで、脅迫とゆすり、罠と誘惑という、アメリカやアメリカとつながった世界全体の、深く構造的な悪と腐敗を暴かれることの、恐怖であろう。これが「サタンの」なものであることは言うまでもない。というより、「悪魔とはこういうものであったのか」と、我々が目を開かれるようなものが、目の前に展開している。

一つの注目すべき出来事は、バイデンの閑散とした大統領就任式に、レディ・ガガが呼ばれて国家を歌ったことである。これは「レディ・ガガ：私は魂をイルミナティ暗黒集団に売ったことを後悔」という我々の翻訳記事が、今に至るも、圧倒的に人気のトップ記事であることに関係すると思われる。これは、いわゆる泥沼と、そこに巣食うワニどもとは、どういふものであるのかを想像させるものである。

私は、「彼ら」が最も恐れるのは、トランプ大統領と、もう一人は、プーチン氏ではないかと思う。プーチンがほぼすべてを知っているらしいことは、彼のトランプに対する言葉の端々から、また、何よりも「彼ら」が、この2人の存在しない癒着を立証して、共に潰そうとしていることからわかる。現時点で（バイデンの）アメリカが、ロシアの内政問題（とロシアは言っている）を大げさに騒ぎ立てているのも、ロシアに対する恒常的な恐怖の現れである。なお、これを訳す直前に、L・W 弁護士による、かなり詳しい暴露記事がここに載ったが、すぐに再生不能となった。私も事態を察知して何も言わないことにする。